

アートリエゾンセンターは、「I 音楽教育支援活動」、「II 福祉と子育て支援事業」、「III 芸術によるまちづくり事業」の3本を柱に、芸術文化事業を展開しています。

I 音楽教育支援活動

足立区内のこども園、小学校、中学校といった教育現場を対象として、東京藝術大学の卒業生を中心とした演奏家を派遣し、訪問型の音楽教育支援活動を行っている。子どもたちの文化芸術に対する関心を高め、豊かで健全な育ちに寄与することを目的としている。

事業内容

- 洋楽／邦楽の音楽鑑賞会
- 音楽科授業等の補助
- 部活動指導補助
- 教員研修会

研究分担者

佐野 靖（音楽学部教授）

〈邦楽系事業 p.12〉



〈洋楽系事業 p.13〉



〈金管バンド・吹奏楽の演奏指導 p.14〉



〈映像コンテンツの提供 p.15〉



I. 音樂教育支援活動

目的・概要／令和4年度の成果と課題

実施の目的と概要

「音楽教育支援活動」の目的は、「足立区立の小学校や中学校、こども園等において音楽教育支援を行うことを通して、音楽技能の向上と文化芸術への関心を高め、子どもたちの豊かで健全な育ちに寄与すること」である。

具体的には、東京藝術大学出身の若手演奏家や大学院生などを活用し、学校及びこども園の先生方と協働しながら、邦楽系や洋楽系のコンサートやワークショップ、部活動や課外活動の指導補助、音楽科授業等の補助、教員研修会などを実施し、音楽教育に関する支援活動を展開している。

本年度は、対面によるコンサートやワークショップ、演奏指導をかなり復活させることができた。とは言え、洋楽系のコンサートでは、従来の6割程度の数にとどまっており、コロナ以前の状態には、まだ完全に戻ってはいない。しかも、対面での実施は、感染対策を十分に施す必要があり、学校側も演奏家、リエゾンセンタースタッフたちにとっても一層慎重な判断、行動が求められる。計画から準備、事業完了に至るまで、慎重かついねいに対応していただいた関係諸氏に、この場を借りて深く感謝申し上げる。

足立区内の子どもたちの学びを取り巻くネット環境などは、コロナ禍を通して格段に改善された。本プロジェクトにおいても、着実に数を増した対面実施とともに、タブレット端末を活用した映像コンテンツの視聴を併用するなど、各学校と緊密に連絡を取り合いながら、学校や子どもの実態に即した取り組みを工夫している。

本年度のプロジェクトは、対面実施と映像コンテンツ利用を合わせ、計60件（教員研修を含む）の活動を実施、支援した。概算ではあるが、両方合わせて参加した児童・生徒・教員等の総数は、6,687名にのぼる。

対面実施と映像コンテンツによる実施とその内訳、参加者数は以下のとおりである。

◎対面実施（40件）
▼邦楽系事業：10校（鑑賞会7校、授業補助3校）[参加：1,025名]
▼洋楽系事業：12校（鑑賞会10校、授業補助2校）[参加：2,633名]
▼演奏指導：17校（小学校10校、中学校6校、小中一貫校1校）[参加：458名]
▼教員研修：1件（小学校音楽教員対象）[参加：45名]
[参加した児童・生徒・教員等の総数：4,161名]
◎映像コンテンツによる実施（20件）
▼鑑賞、授業等の補助：14校（対象：1,897名）
▼演奏指導：6校（対象：629名）
[参加した児童・生徒・教員等の総数：2,526名]

なお、2022年度本プロジェクトをコーディネートしてくれたアトリエゾンセンターのスタッフは、次の3名である。

長谷川 将也（教育研究助手）

田村 桃子（教育研究助手）

西村 翼（研究員）

以下、2022年度の活動内容の成果と課題を記すことにする。活動内容の詳細については、各項目を参照されたい。

活動内容の成果と課題

前述のように、今年度は、かなりの程度まで対面によるコンサートやワークショップ、演奏指導を復活させることができた。加えて、コロナ禍のもと試行錯誤で作成、配布した映像コンテンツは、対面実施が広がる中でも効果的な視聴教材として位置付けられている。いろいろな知識や基礎・基本を子どもたちが映像コンテンツで前もって学習したおかげで、対面での演奏や指導がより効果的なものになった。また、映像で見た演奏家が、対面で目の前に現れ、演奏や指導を展開してくれることは、子どもたちにとってもより親近感がわき、ワクワク感や憧れの気持ちが強くなるのは当然と言える。

このような映像コンテンツと生の対面指導の連動は、リコーダーをテーマとした夏の教員研修でも同じような成果をもたらした。昨年度にリコーダーに関するレクチャー動画（「基本操作編」と「鑑賞編」の2部構成）を回覧閲覧していた音楽専科の教員たちは、楽器としてのリコーダーとしての歴史や基礎的な知識、基本的な技能習得のための指導法について学んでいたため、対面での学びが一層深まったのである。

何度も視聴できるというよさをもつ映像コンテンツは、コロナ禍以前のようにすべてが対面実施に戻ったとしても、効果的に併用することが重要と考える。そのためにも、よりよい映像コンテンツを作成するよう、今後も継続して工夫を重ねる必要がある。

課題としては、次の2点をあげておきたい。

1点目は、和楽器にしても洋楽器にしても、どうしても子どもや教師は、よりよい表現をするための指導を演奏家たちに求めがちである。これは、ある意味もっともなことである。しかし、よい音や音楽を聴いてインプットしていなければ、アウトプットの質を高めることはできない。つまりよい表現やイメージを生むためには、よい鑑賞が不可欠であると言っても過言

ではない。専門家と直に触れ合う機会は限られている。技能的な指導を受けることが最優先されるのは仕方ないが、専門家たちが日頃どのような音や音楽をどのように聴いているのかなど、音楽の聴き方や音楽との向き合い方も学んでほしいと願っている。むしろこれらのことは、指導に出向く演奏家たちの課題でもある。言葉がけも大事ではあるが、できるだけ生の音でコミュニケーションを行い、よい音とはどういうものなのかを子どもたちが実感して味わえる機会を多くつくるのが大切である。

2点目は、本事業への申し込み方法についてである。従来紙媒体で行っていたが、記入漏れ等があった場合、やり取りにかなりの時間を要していた。Web環境も大きく改善されている状況を鑑み、来年度より事業への申し込みシステムのオンライン化を図りたいと考えている。これによって記入漏れ等への対応はスムーズになり、時間の節約につながる。とりわけ演奏

指導に関しては、夏のコンクールに向けてや、基礎指導の充実などから、従来よりも開始時期を早めてほしいとの希望が多い。そのため、少しでも申し込み手続きを簡略化する必要がある。

ようやく学校生活はコロナ禍以前の日常を取り戻しつつはあるが、コロナ禍の期間に子どもたちが音楽に触れる機会が減ったことはまちがいない。とりわけ歌唱や器楽の表現活動は大きな影響を受けている。こうしたマイナス面をいきなり取り戻すことは物理的にも不可能ではあるが、学校での対面（ライブ）でのコンサートや指導を録画し、オンデマンドで視聴できるようにするなど、いろいろな音楽場面に子どもたちが触れ合えるような機会を、学校現場とも連携、協働しながら、創意工夫して生み出していくことが強く求められている。

(文責：佐野 靖)

【音楽教育支援活動 実施一覧】

■対面での実施

	学校名	プラン	実施日時	対象	参加人数
1	西新井第一小学校	和楽器（三味線）の授業等補助	6/29	5年生	69
2	洲江小学校	民謡・祭りの鑑賞会	7/12	4年生・5年生	144
3	千寿本町小学校	和楽器（箏）の授業等補助	7/14	4年生	66
4	谷中中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/14, 7/15, 7/23, 8/1, 8/2, 8/6	吹奏楽部	35
5	千寿第八小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/22, 7/25, 7/27, 7/28, 8/3	金管バンド	28
6	第六中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/22, 7/26, 7/29, 8/2, 8/4, 8/5, 9/26, 10/14, 10/17, 10/31, 11/28, 12/19, 1/16	吹奏楽部	25
7	興本扇学園	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/27, 7/29, 8/1, 8/3	吹奏楽部	18
8	梅島第一小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/22, 7/25, 8/25, 8/26, 8/29	金管バンド	33
9	千寿常東小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/25, 8/1, 8/2, 8/3, 1/17, 1/24, 1/26, 1/31	金管バンド	52
10	東洲江小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/25, 8/2	金管バンド	61
11	梅島第二小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/28, 8/1, 8/2, 1/28, 2/4	金管バンド	30
12	弘道小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/4, 7/5, 7/7, 7/11, 7/12, 7/14, 9/22, 9/26, 10/20	吹奏楽部	39
13	千寿青葉中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/5, 7/8, 7/15, 7/19, 7/26	吹奏楽部	24
14	江北小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/7, 7/11	金管バンド	32
15	弘道第一小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	7/8	3～6年生	260
16	大谷田小学校	声楽の授業等補助	7/8	6年生	48
17	加賀中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/8, 7/11, 7/14, 7/16, 7/21, 7/25, 7/26	吹奏楽部	16
18	長門小学校	声楽の授業等補助	7/9	合唱団	27
19	洲江中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/9, 7/17, 7/18, 7/21, 1/26, 1/27, 2/2, 2/3, 2/9, 2/13	吹奏楽部	25
20	扇小学校	民謡・祭りの鑑賞会	9/13	4・5年生	108
21	中川北小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	9/15	6年生	83
22	足立小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	9/22, 10/4, 10/20, 11/8	金管バンド	22
23	栗島小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	9/29	1～6年生	341
24	鹿浜西小学校	民謡・祭りの鑑賞会	9/5	1～6年生	145
25	保木間小学校	弦楽器アンサンブルの鑑賞会	9/9	1～6年生	322
26	舎人第一小学校	声楽アンサンブルの鑑賞会	10/11	1～6年生	511
27	竹の塚中学校	和楽器（囃子）の授業等補助	10/14	3年生	44
28	加平小学校	声楽アンサンブルの鑑賞会	10/31	3～6年生	388
29	花畑第一小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	10/4	3・4年生	164
30	六月中学校	金管アンサンブルの鑑賞会	10/7	1～3年生	228
31	亀田小学校	民謡・祭りの鑑賞会	11/15	4年生	124
32	入谷中学校	雅楽の鑑賞会	11/17	1～3年生	132
33	東綾瀬中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	12/13, 12/15, 12/16, 12/20, 12/22, 1/21	吹奏楽部	18
34	青井小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	1/17	4・5年生	137
35	鹿浜五色桜小学校	民謡・祭りの鑑賞会	2/6	4年生	87
36	足立入谷小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	2/10	1～6年生	124
37	東伊興小学校	雅楽の鑑賞会	2/15	6年生	106

■映像コンテンツによる実施

学校名	内容	対象	対象人数
保木間小学校	演奏指導および鑑賞	吹奏楽部	31
澗江中学校	演奏指導および鑑賞	吹奏楽部	26
千寿第八小学校	演奏指導および授業等補助	6年生	81
青井小学校	演奏指導および授業等補助	金管バンド	48
千寿桜小学校	演奏指導および授業等補助	吹奏楽部、3～6年生	428
加賀中学校	演奏指導、鑑賞および授業等補助	吹奏楽部	15
東綾瀬中学校	鑑賞	吹奏楽部	3
足立小学校	鑑賞	4年生	102
島根小学校	鑑賞および授業等補助	5年生	91
千寿桜堤中学校	鑑賞および授業等補助	1～3年生	538
興本扇学園	鑑賞および授業等補助	3・4年生	160
北三谷小学校	授業等補助	6年生	57
加平小学校	授業等補助	4～6年生	271
梅島第一小学校	授業等補助	3年生	46

■教員研修

	学校名	プラン	実施日時	対象	参加人数
1	小学校音楽教員研修	リコーダーについて（理論編・鑑賞編） リコーダーの基本操作について（実践編）	7/26	足立区立小学校の音楽教員	45

邦楽系事業（鑑賞会・授業等の補助）

邦楽の鑑賞

パッケージA:「邦楽の鑑賞」は「A-1:箏・尺八」「A-2:長唄・長唄三味線」「A-3:民謡・祭りの音楽」「A-4:その他(能楽、雅楽、日本舞踊など)」の4つのパッケージを作成した。本年度は昨年度から実施している「対面形式」を継続できたため、演奏会形式でのコーディネートを行った。

本年度は、事前アンケートで「邦楽の鑑賞」を希望する学校が「A-2:長唄・長唄三味線:1校」「A-3:民謡・祭りの音楽:8校」「A-4:その他(雅楽):2校」という内訳であり、うち実施した学校は、「A-3:民謡・祭りの音楽:5校」「A-4:その他(雅楽):2校」であった。

「A-4:その他(雅楽)」は、雅楽演奏家3名に演奏を依頼し、雅楽三管編成[笙・箏・龍笛]での公演を実施した。小編成ながらも雅楽の魅力に触れる内容になった。また、事前アンケートにも希望があった、「楽器や装束を間近で見たい」「楽器の演奏体験をしたい」との要望に応えるべく、雅楽の装束を着用して演奏を行い、実際の雅楽公演に近い形式で上演した。生の音色を聴く機会の少ない楽器・音楽であるだけに、児童・生徒の関心もより深いものであったと感じた。体験では感染状況の改善も見られたため、「越殿楽」を題材に雅楽の唱歌に触れ、日本音楽における伝承法の一つである「口唱歌」の仕組みや役割について学ぶプログラムを設けた。

「A-3:民謡・祭りの音楽」は、津軽三味線、尺八、囃子の演奏家それぞれ1名、計3名に演奏を依頼した。津軽三味線の独奏による「津軽じょんがら節」をはじめ、演奏家によるオリジナル作品の演奏、楽器紹介のほか、学校からのリクエストなどにも応じ、楽器や編成の可能性を感じられる内容を構成した。とりわけ演奏家のオリジナル作品においては、和楽器で奏でられる音楽の幅広さに児童・生徒も驚いている様子で、和楽器の持つ可能性を感じていただけたのではないだろうか。

コロナ禍ということもあり、鑑賞人数や学年の制限がある中での開催であったが、アトリエゾンセンターと学校で綿密なやりとりを行い、無事に実施することができたのは何よりであった。一方で、例年「邦楽の鑑賞」に対する希望は「洋楽の鑑賞」に比べて少ない傾向が見受けられるので、パッケージの多様化を図るなど、工夫をする必要があるように感じられる。

来年度も、派遣演奏家や学校との連携を密に取り、より充実した公演を提供できるよう取り組みを続けていきたい。

(文責:長谷川 将也)

授業等補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、邦楽系事業

としては「D-5:和楽器指導」の1つの区分で募集を行い、本年度は3校からの希望を受け付けた。「三味線の指導」「箏の指導」「囃子の指導」と、例年よりも幅広い希望があり、その指導内容も様々であった。

いずれの学校も、音楽の授業に和楽器の体験を取り入れている学校で、センターが演奏家を派遣する前に事前学習として数回の授業を行っており、生徒は楽器に対する基礎知識を身につけている様子だった。

授業は「楽器体験」「楽器紹介」「作品鑑賞」と、内容を大きく3つに分けて実施したが、学校からの要望もあり「楽器体験」に多くの時間を使った。たとえば「三味線の指導」「箏の指導」を希望する2校では、日本古謡「さくらさくら」を題材に、楽器の構えから実際の演奏まで、3名の演奏家が生徒一人一人に寄り添って細やかな指導を行った。「囃子の指導」を希望する学校では、学校が用意した「締太鼓」「和太鼓」を用いて、楽器の扱い方から叩き方など基礎指導を行った後、校内発表会で取り上げる作品の演奏指導を行った。

和楽器の演奏指導は、楽器によって用いる道具や譜面が様々であるために、内容の検討が難しいと感じる点もあるが、事前学習等で基礎知識を身につけている学校が多くあり、実際の指導はスムーズかつ充実したものであると実感した。

本年度の事業を通じて「授業等補助」のパッケージについては、とりわけ学校側との密な連携が必要であると感じた次第である。

(文責:長谷川 将也)

アンケートより

- ・ すてきな音楽、音色を聞かせてくれてありがとうございます。花笠おんどもとてもたのしくなりました。これからもゆめに向かってがんばってください。最高な鑑賞会になりました。[A-3:民謡・祭りの音楽/小4女子]
- ・ おにやししまいなどは力があっていいなと思いました。なまではじめて聞けてうれしかったです。[A-3:民謡・祭りの音楽/小4女子]
- ・ 花笠音頭を演奏していただいたことで、私たちが身近だった曲がこのような形でできるんだなということに気づき、音楽の良さを感じるとても良い機会になりました。コロナの状況下ではとても貴重な場だったと思います。ありがとうございます。[A-3:民謡・祭りの音楽/教員]
- ・ 難しいところを優しく教えてくださったので少しできるようになりました。[D-5:雅楽/中2女子]
- ・ 雅楽の歴史や楽器のことがわかりやすかったです。生徒の質問にも丁寧に答えていただき、ありがとうございました。[A-4:雅楽/教員]

洋楽系事業（鑑賞会・授業等の補助）

●パッケージB：洋楽の鑑賞会

パッケージB：洋楽の鑑賞会では、以下の6つの区分で募集を行い、10校にて事業を実施した。

- B-1：ピアノ [実施無し]
- B-2：声楽 [小学校2校]
- B-3：弦楽器 [小学校1校]
- B-4：木管楽器 [実施無し]
- B-5：金管楽器 [小学校3校、中学校1校]
- B-6：打楽器 [小学校3校]

昨年度に引き続き、今年度の申込み数もコロナ以前に戻ることはなく、以前の6割程の実施にとどまったが、計画したものの全て無事に実施することができた。

例年希望の多い打楽器だが、それを上回るほど金管楽器の希望が多く、さらに昨年度は希望の無かった声楽の希望もあったことから、対策を採りながらの鑑賞会の実施が受け入れられて来ていることがうかがえる。また今回増加した金管楽器を希望する理由として「金管バンドの人数が減ってしまったので憧れを持たせたい。」という意見があった。足立区では金管バンドを持つ小学校が多くあるが、コロナ禍で活動を中止せざるを得ない期間が長くあり、従来ならば上級生の演奏姿から憧れや意欲が湧き次年度へと受け継いでいたものが途絶えてしまったのだと考えられる。現在活動自体は再開しつつあるものの、児童・生徒たちには、音楽に触れる機会が減ってしまった影響が未だ残っていることを感じた。

全実施のうち、6校が2コマに分けての公演スケジュールを採用しており、昨年からの実施が定着しつつある。また全校一斉に実施した学校も、低学年は前方に敷いたマットに体育座りで、高学年はその後ろに椅子を並べてといった工夫で奏者との距離をとりつつ、前後の見易さにも配慮した配置をとっていた。

アンケートより

- ・ どれみの音がくがよかったです。もっといろんな音がくをききたいです。[B-5 小1女子]
- ・ 9mもながいものをあんなに小さいのにしゅうのうできてすごいと思いました。大人になったら音楽に関係する仕事をしたいと思いました。[B-5 小3男子]
- ・ マリンバは優しくスローテンポを奏でると思っていたので、激しく速く音を出している姿を見てお

どろいた。[B-6 小6女子]

- ・ 打楽器の打つ音が体育館全部に伝わってゆかがゆれてたのを覚えてます。また来てください。[B-6 小6女子]
- ・ 司会の方が曲の合い間に子どもたちが興味をもてるように話を入れてくださりわかりやすかった。[B-5 教員]
- ・ 楽器の起源や音の違いなどを丁寧に説明していただきながら、演奏が進んでいったのがとても良かったです。[B-5 教員]
- ・ 普段集中の持続が難しい児童も音楽の世界に入り込み聴き入っていました。音楽から物語をイメージすることができるくらい、強弱などもあり、感動しました。[B-5 教員]

（文責：田村 桃子）

●パッケージD：授業等の補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、洋楽系事業としては以下の4つの区分で募集を行った。

- D-1：歌唱・合唱指導 [小学校2校]
- D-2：器楽指導 [実施無し]
- D-3：創作指導 [実施無し]
- D-4：鑑賞指導 [実施無し]

D-1「歌唱・合唱指導」では、長年当事業にて指導を担当する合唱指揮者を派遣し、専門的な観点からの指導を行った。

アンケートより

- ・ 最初に歌った時は、66デシベルだったけど、指導をうけて、80デシベルになっておどろきました。[小6女子]
- ・ 声を大きくするには、大きく口を開け、いっぱい息をすうこと。先生の高い声と低い声、どちらもきれいで感動しました。[小6男子]
- ・ わかりやすく教えてもらえたと、声もとても聞きやすかった。改めて音楽が好きになった。[小6女子]
- ・ いい姿勢にすると呼吸が深くなるのが、他教科の学習にもつながることがわかり、子どもたちが大いに納得していました。教室での声かけの際にも、今回学んだことを生かしていきたいと思います。[教員]

（文責：田村 桃子）

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」では、本年度も本校の卒業生および在學生を指導者として派遣し、基礎・基本から楽曲における演奏まで専門的な指導を行った。長年この事業に携わる講師も多く、演奏技能だけでなく指導経験も豊富な演奏家が指導に当たっている。今年度は、こうした活動に意欲のある大学院生数名が新たに加わったことで、戻りつつある実施件数に対応することができた。

募集は〔C-1：楽器別の演奏指導〕〔C-2：合奏指導〕の二種に分かれており、のべ回数内であれば併用することも可能としている。実施校は17校（小学校：10校、中学校：6校、一貫校：1校）とコロナ以前とまではいかないが、昨年度より大幅に増加した。

しかし、昨年度設定した1校あたり、のべ18回という実施回数は変わらず実施することができたため、多くの学校に複数の指導を行うことができた。

指導内容は、中学校では夏のコンクール前の時期に、課題曲等の楽曲に対する集中的な指導を求められることが多かった。こうした学校では、合奏指導指導と楽器別の演奏指導を併用することで、より音楽的に充実した指導が可能になった。演奏指導を合奏指導の前に行うか、事後に行うかはパートごとの習熟度にあわせて計画を立てられるため、状況に細かく寄り添った指導を行うことができた。

全体としては基礎・基本から見してほしいとの声が一番多く、そうした学校は入部したての児童・生徒への指導を求めることから、早い時期の実施希望が多かった。現在は6月に全校に案内を発送し、早くても6月

の末が最短の実施という流れであるが、案内までの準備期間を短縮し、基礎の指導が求められる早い時期に実施が始められるよう工夫が必要であると感じた。

アンケートより

- ・ とても分かりやすく説明してくれて今日おぼえたことをいしきしながら練習でやりたいです。[小5女子]
- ・ ロールのコツやバチの持ち方など改めてよく分かった。[小6男子]
- ・ 自分の課題が分かって、それをできるようにする練習方法を学ぶことができた。曲の中できれいに吹くためのコツやイメージがよく分かった。[中2女子]
- ・ 私はきれいな音が出せないのが悩みだったのですが、教わった口の形や頭の中のイメージを実践してみるとすぐに音がきれいにできてとても嬉しかったです。曲についてもアドバイスを頂き、濃くて良い時間にできました。[中2女子]
- ・ いつもやっている練習でも、専門の人がやると自分との違いがよくわかりとても勉強になりました。[中3女子]
- ・ 練習する時の姿勢が変わりました。音色が良くなりました。[教員]
- ・ 小学生～中学生と多様な児童生徒に対して、レベルにあった指導をしていただき、又、自信がもてるような声かけをしていただきありがたかったです。[教員]

(文責：田村 桃子)

映像コンテンツ

今年度、映像コンテンツは昨年度に引き続き「鑑賞あるいは授業等補助」と「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」の2つの区分で申込を受け付けた。以下、コンテンツの区分ごとに報告する。

鑑賞あるいは授業等補助

今年度、映像コンテンツを希望する学校は計14校（内、対面指導中止による切替が1校）であった。実施校にはコンテンツのラインナップを計2回に分けて案内し、年間で4種類を上限として、申請を受ける形をとった。ラインナップは、昨年のものに加え今年度新たに作成したコンテンツを追加し、「邦楽・洋楽の鑑賞」が26種類、「授業等補助」が6種類の計32種類となった。

感染症の影響で歌唱活動などに制限がある中での実施であったが、「授業等補助」教材として唱歌「ふるさと」のコンテンツを用いたり、声楽のコンテンツを鑑賞したりと、前年度には希望の少なかったコンテンツが積極的に用いられるなど、感染状況の改善により学校現場の指導内容が変化していることを感じた。例年通り、和楽器や洋楽器（木管、金管、打楽器）などの映像コンテンツに対しても多くの希望があり、対面実施とは異なる鑑賞形態を提示することにより、児童・生徒にとって新たな音楽体験に繋がったのではないだろうか。

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

今年度、映像コンテンツでの実施を希望する学校は、計6校であった。

コンテンツは、金管バンド及び吹奏楽で使用される13種類の楽器の指導映像が収録され、音を出す前の準備段階から日々の基礎練習までをカバーした内容となっている。

対面指導と併用した学校もあり、限られた回数での対面指導に向けた事前学習として、あるいは対面指導後のサポート教材としても用いられた。

講師の手元を映したカットなども含まれ、譜例や図示を交えた解説で難しいところは繰り返し視聴できるため、児童・生徒の学習の一助となっただろう。

現在作成しているコンテンツは、各楽器1種類で初級者用～中級者用までを網羅した内容であるため、学習者のレベルごとにもう少し細かく対応できるよう、新たなコンテンツの開拓も検討したい。

今後感染症が収束しても、例えば対面での鑑賞会とコンテンツを併用する、授業の補助教材として用いるなど、引き続き活用できるよう取り組みを続けたい。

【映像コンテンツ一覧】（★は本年度追加したもの）

■邦楽の鑑賞
和楽器の演奏：箏・尺八①
和楽器の演奏：箏・尺八②
和楽器の演奏：津軽三味線
和楽器の演奏：江戸の祭囃子
和楽器の演奏：獅子舞
■洋楽の鑑賞
ピアノの演奏
声楽の演奏：テノール（独唱）
声楽の演奏：メゾソプラノ&バリトン（独唱・二重唱）
声楽の演奏：オペラ・オペレッタ セレクション（メゾソプラノ&バリトン）
声楽の演奏：声種の違いを感じ取ろう／声の重なりを楽しもう
声楽の演奏：日本のうたで四季を味わおう
弦楽器の演奏：弦楽四重奏
弦楽器の演奏：ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス
弦楽器の演奏：ヴァイオリン名曲選
弦楽器の演奏：ヴァイオリン ロマンティック名曲集
木管楽器の演奏：フルート（独奏・二重奏）
木管楽器の演奏：オーボエ／ファゴット
木管楽器の演奏：サクソフォーン
木管楽器の演奏：クラリネット
木管楽器の演奏：フルート／オーボエ／ピアノ 名曲集
金管楽器の演奏：金管五重奏
打楽器の演奏：鍵盤打楽器アンサンブル
打楽器の演奏：からだを使ったリズムアンサンブル
室内楽の演奏：物語と音楽
室内楽の演奏：踊りの音楽
口笛の演奏
■音楽科授業等の補助
歌唱のヒント：「ふるさと」を歌おう
器楽のヒント：リズムアンサンブル・小物打楽器
器楽のヒント：ピアノ／ヴァイオリン／チェロについて知ろう・聴こう
★器楽のヒント：リコーダー
和楽器のヒント：箏
和楽器のヒント：和楽器ってなんだろう？
■金管バンド・吹奏楽の基礎レッスン
トランペット／ホルネットの基礎レッスン
フレンチホルンの基礎レッスン
アルトホルンの基礎レッスン
トロンボーンの基礎レッスン
ユーフォニアムの基礎レッスン
チューバの基礎レッスン
打楽器の基礎レッスン
フルートの基礎レッスン
クラリネットの基礎レッスン
サクソフォーンの基礎レッスン
オーボエの基礎レッスン
ファゴットの基礎レッスン
コントラバスの基礎レッスン

アンケートより

- ・ ユーフォニアムの置き方はたてに置くだけでなく、広い場所で人が少なければねかせて置くことができることを初めて知りました。[金管バンド・吹奏楽の演奏指導：ユーフォニアム／小5女子]
- ・ 楽器の出し方や手入れの仕方までていねいにレクチャーがありとても良かったです。子どもが知っているような曲の演奏も入っているとうれしいです。ありがとうございました。[金管バンド・吹奏楽の演奏指導：ユーフォニアム／教員]

（文責：長谷川 将也）

教員研修：リコーダーの指導法と実技研修

日時：7月26日（火）14：00～16：30
会場：東京藝術大学千住キャンパス第7ホール
講師：深井愛記音、桐畑奈央、中島恵美

本年度は、コロナ禍のため昨年度は対面実施を見送り、レクチャー映像の回覧視聴となった「リコーダー」に関する研修会を実施することができた。昨年度、映像コンテンツ（「基礎操作編」と「鑑賞編」の2部構成）の作成に協力いただいた講師（本学出身のリコーダー奏者3名）が、今回は対面研修を担当することになった。DVDで視聴していた演奏家たちが実際にレクチャーや演奏を目の前で行ってくれたり、質問に答えてくれたりすることによって、受講の教員たちは、リコーダーという楽器に、そして研修の講師たちにより親近感をもつことができたと思う。

本研修会は、前半が「リコーダーについて（理論編・鑑賞編）」と「リコーダーの基本操作について（実践編）」、後半が「曲を吹いてみましょう」と「発表」、最後が質疑応答というプログラム構成である。

前半では、リコーダーについての理論や歴史、操作

方法の基礎・基本について学ぶとともに、リコーダーの名曲を生演奏で鑑賞し、リコーダーのもつ魅力を存分に味わった。後半は、課題曲をグループごとに選択し、発表に向けて実践練習に取り組んだ。教員自身が表現者として演奏する場を設けたことは、受講生同士のコミュニケーションを活性化するという点でも大きな意義があったと考える。

最後の質疑応答では、さまざまなアプローチからリコーダーを学んだ受講生から、多くの実践的な質問があった。運指や楽器の持ち方、タンギングやサミングなど技能面に関する質問から、子どもが好きそうな面白ネタなど楽しい話題に至るまで、演奏家たちは実践を交えながら、ていねいにわかりやすく回答した。

学校現場では、どうしてもリコーダーというと教育用楽器のイメージが強いが、長い歴史をもつ西洋音楽の楽器で、有名な作曲家たちによる作品も多く残っていることを知った受講生たちは、リコーダーに対する見方が変わったにちがいない。こうした自身の経験を、ぜひとも今後の指導に生かしてもらいたい。

（文責：佐野 靖）

政策提言

ここでは、2つの点について提言を行いたい。

第一は、学校の所有する楽器の状態についてである。

足立区が着実に進めている学校の楽器の状態を改善する取り組みは、全国的にも高く評価されるべき政策である。ただし、吹奏楽の楽器などと比較して、特に和楽器に関して地域や学校による格差が大きい。地域から楽器を提供されて多くの和楽器を有している学校もあれば、区などからの貸与に頼らざるを得ない学校も多い。しかも、前者のように一定数の和楽器を所有している学校においても、それぞれの楽器の状態には著しい差が見られる。

和楽器の場合、一年を通して使用するというケースはきわめて稀であり、楽器のメンテナンスや保管状況が大きな影響を及ぼす。和楽器を対象としたメンテナンスの講習会などを開催したり、特に和楽器を多く所有している学校には、専門家を派遣したりする取り組みが必要と考える。

幸い本学音楽学部には邦楽科が存在する。学生の協力的な参加などが実現できれば、かなり大規模な取り組みも可能ではないだろうか。

もう一点は、ここ数年主張し続けている「ネット環境を総合的に整備し、ICT教育を一層推進してほしい」という提言である。

この点についても、課題解決に向けた足立区の取り組みが、かなりの成果をもたらしていることは実感できる。タブレット機器も普及し、全体として学校や子どもを取り巻くネット環境が改善されてきていることは確かである。こうした物的環境に加えて、教員を対象としたICT教育の充実を目指し、行政と学校、教員との一層の協働が期待される。

前年度の「提言」の繰り返しになるが、音楽科の教員でICT活用のノウハウに優れた教員は以前としてそれほど多くないのではないかと、経験的には推察される。しかしながら、私のようなアナログ人間でも簡単に使いこなせるような音楽科の教材ソフトが次々と開発されている。本プロジェクトでも毎年行っている教員研修でも、ICTを活用した音楽活動や指導法といった研修を積極的に取り入れたいとは考えているが、一番大事なものは、教員一人一人の意識改革である。それには、区全体として行政のサポートが重要となる。

音楽科の学習の領域・分野で言えば、とりわけ創作と鑑賞に関わるソフトの充実がめざましい。さまざまなツールが使いやすくなっている現状では、それほどの知識やスキルを持たない教員でも、ICTの活用は可能である。ポジティブな思考で、いろいろな関係性を主体的、協働的に拓いていくことが大切である。

(文責：佐野 靖)

足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究

アトリエゾンセンター

[研究代表者]

杉本 和寛 音楽学部長／音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸

[センター長]

佐野 靖 副学長（社会連携担当）／音楽学部教授 音楽教育

[所属教員]

畑 瞬一郎 音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸（旧応用音楽学）

田村 文生 音楽学部准教授 音楽音響創造

～センター所属スタッフ～

[研究員]

西村 翼 音楽教育・ファゴット

深水 悠子 音楽音響創造・作曲

[教育研究助手]

長谷川 将也 邦楽・尺八都山流

田村 桃子 洋楽・フルート

報告書編集：川田 龍哉

印刷：ヨシミ工産株式会社

東京藝術大学音楽学部アトリエゾンセンター

〒120-0034 東京都足立区千住1-25-1 東京藝術大学音楽学部千住キャンパス

Tel：050-5525-2744 Fax：03-5284-1575

令和5年3月31日 発行